

## 第2章 勉学態度と授業態度

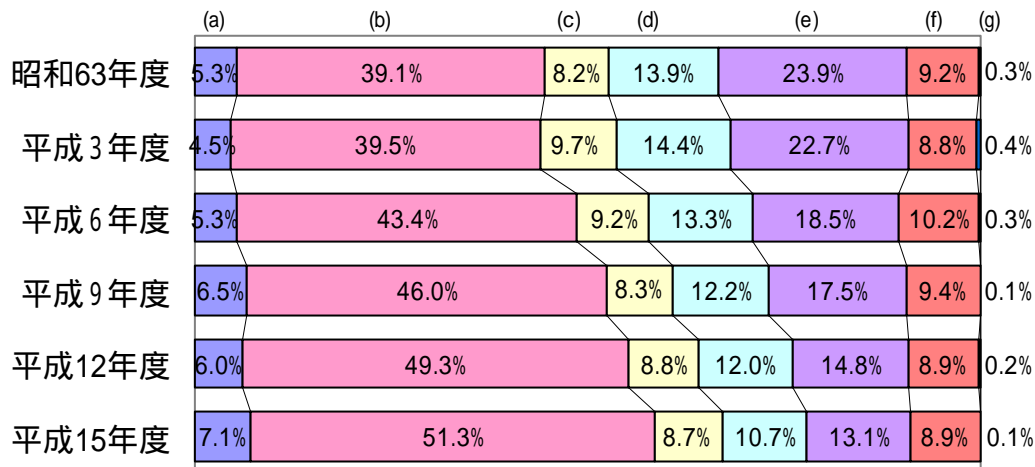
### 1. 勉学態度

#### (1) 勉学態度の経年変化

授業や教科書を中心とした勉学態度が、年々向上している。

「教科書・ノート中心に必要な単位を取得」の比率は、昭和63年度の39.1%から増加傾向にあり、平成15年度は51.3%と約10ポイント上昇している。反対に、「適当に他人のノートのコピーを利用」の比率は、昭和63年度の23.9%から平成15年度の13.1%と減少している。学生の教師や授業等に対する評価が高くなってきていること、友人関係等に変化が生じてきていることをうかがわせる結果となっている。

図2-1 勉学態度の経年変化



- (注) a : 授業や自主的テーマで積極的な勉学  
 b : 教科書・ノートを中心に必要単位を取得  
 c : 授業より自分で積極的勉学  
 d : 授業より人生・社会問題、課外活動、  
 e : 適当に他人のノートのコピー利用  
 f : ただなんとなく過ごしている  
 g : 無回答

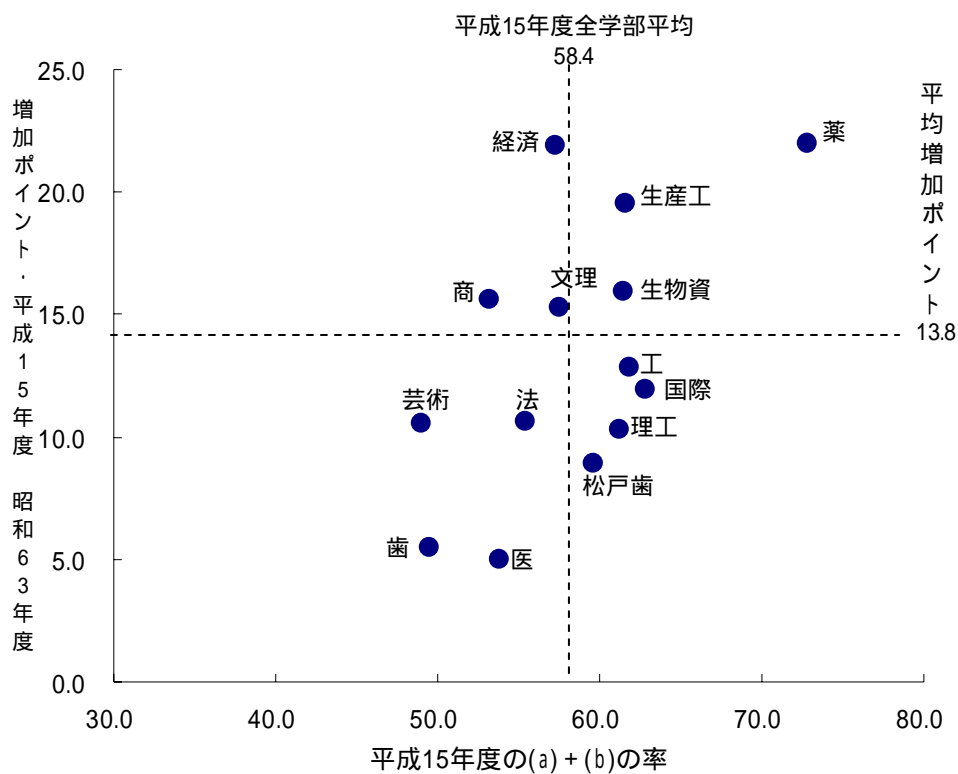
## (2) 学部別勉学態度

勉学態度が最も向上したと思われるのは、薬学部、生産工学部および経済学部である。

横軸に平成15年度における比較的積極的な勉学態度(「授業や自主的テーマで積極的な勉学」および「教科書・ノート中心に必要単位を取得」)を示す学年の比率を、縦軸に増加ポイントを示したものが図2-2である。

勉学態度は全体的に良くなっているが、とくに良くなったと思われる学部は、薬学部、生産工学部、生物資源工学部である。学生の勉学態度が向上してきているなかで、全体的にみて向上程度が小さいと思われるのが、法学部、芸術学部、医学部、歯学部である。特に、医学部と歯学部は増加ポイントが低く、勉学の方法として、「他人のノートのコピーを利用」する方法を採用している学生が他学部と比較して多い学部である。

図2-2 学部別勉学態度



(注) a : 授業や自主的テーマで積極的な勉学

b : 教科書・ノートを中心に必要単位を取得

< 参 考 >

表 2 - 1 勉学態度の経年変化

「授業や自主的テーマで積極的な勉学」+「教科書・ノート中心に必要単位を取得」の比率

(単位：%)

年 度 学 部	昭和 63年度 (a)	平成 3年度 (b)	平成 6年度 (c)	平成 9年度 (d)	平成 12年度 (e)	平成 15年度 (f)	増加 ポイント (f) - (a)
全 体	44.6	44.0	48.6	52.5	55.3	58.4	13.8
法学部	44.8	43.7	39.6	56.4	49.6	55.4	10.6
文理学部	42.2	41.4	53.3	60.8	56.4	57.5	15.3
経済学部	35.4	42.0	48.7	53.1	55.1	57.3	21.9
商学部	37.6	31.9	41.6	40.7	47.2	53.2	15.6
芸術学部	38.5	37.4	35.8	46.3	44.5	49.0	10.5
国際関係学部	50.9	47.2	62.9	53.4	59.1	62.8	11.9
理工学部	50.9	48.7	49.9	50.0	56.3	61.2	10.3
生産工学部	42.1	46.1	51.9	53.2	55.6	61.6	19.5
工学部	49.0	54.5	47.0	52.5	67.5	61.8	12.8
医学部	48.8	37.0	49.0	56.8	54.7	53.8	5.0
歯学部	44.0	39.2	35.3	35.7	42.3	49.5	5.5
松戸歯学部	50.7	59.8	54.4	53.7	65.4	59.6	8.9
生物資源科学部	45.6	44.8	54.4	53.6	58.1	61.5	15.9
薬学部	50.9	49.0	54.8	69.6	72.6	72.9	22.0

## 2. 授業に対する態度

### (1) 授業態度

授業態度に関する設問は、平成15年度調査より改正されているため、時系列で分析することはできない。(時系列で検討を加える場合は、全体及び各学部別集計結果表を参照されたい。)

約60%の学生が授業に熱心

最も熱心に授業を受けていると思われるのが、「保健体育」であり、全学生の65%が熱心にあるいはまあまあ熱心に授業を受けている。次いで、「専門(必修)科目」が60.4%、「専門(必修以外)科目」(57.9%)となっている。

表2 - 2 授業態度

(%)

	熱心 + まあまあ	義務的	怠慢 + 無関心
総合教育(一般・基礎)科目	52.4	30.7	16.9
外国語科目	53.8	40.1	6.1
保健体育科目	65.0	26.3	8.7
専門(必修)科目	60.4	31.1	8.5
専門(必修以外)科目	57.9	27.7	14.4

(注)「義務的」は「試験が不安」「出席をとるから」の合計

「怠慢 + 無関心」は、それ以外の合計

参考のため授業態度の時系列比較を試みたのが以下の表2 - 3である。

平成15年度は外国語科目に対する比率が低下しているが、他のすべての項目において比率が増加しており、授業態度の熱心さがうかがえる。

表2 - 3 「熱心」+「まあ熱心」の比率の経年変化(参考)

(単位：%)

項 目	年 度					
	昭和 63年度	平成 3年度	平成 6年度	平成 9年度	平成 12年度	平成 15年度
総合教育科目で出席をよくとる授業	45.6	43.2	46.1	50.2	51.1	52.4
総合教育科目で出席をとらない授業	38.2	36.7	38.5	41.8	43.2	
外国語科目	53.8	53.2	53.4	56.7	58.2	53.8
保健・体育科目	58.2	55.8	60.2	62.3	67.3	65.0
専門科目の必修で出席をよくとる授業	58.8	57.2	58.5	59.7	61.0	60.4
専門科目の必修で出席をとらない授業	49.1	48.8	50.3	52.3	54.3	
専門科目の必修以外で出席をよくとる授業	46.5	45.9	50.3	52.1	54.6	57.9
専門科目の必修以外で出席をとらない授業	41.0	41.4	44.8	48.3	50.1	

(注)

$$\text{熱心+まあ熱心} = \frac{\text{「熱心だった」の回答者数} + \text{「まあ熱心に聞いていた」の回答者数}}{\text{全回答者数} - (\text{「これまでの受講科目にない」の回答者数} + \text{「無回答」の回答者数})} \times 100$$

(2) 学部別授業態度

総合教育科目に対しては、法学部の学生が熱心であり61.6%を占め、逆に医学部、歯学部、松戸歯学部、薬学部で熱心な学生は少なくなっている。外国語については、国際関係学部で熱心な学生の比率が高く、逆に医学部、松戸歯学部で比率が低い。

保健体育については、理工・工学部で高い水準を示している。「専門必修」科目については、芸術学部、薬学部で比率が高い。医学部、歯学部、松戸歯学部では、専門必修以外の科目に対しては比率が低い。

表 2 - 4 「熱心」+「まあ熱心」の学部別比較

	総合教育科目	外国語	保健体育	専門・必修	専門・必修以外
全体	52.4	53.5	61.2	59.6	54.8
法学部	61.6	56.2	66.1	47.9	46.9
文理学部	57.4	56.0	52.0	64.9	56.5
経済学部	50.0	53.7	54.1	41.1	50.4
商学部	50.9	54.8	65.8	46.1	43.1
芸術学部	42.0	47.6	53.7	87.9	73.8
国際関係学部	55.3	71.7	67.6	53.2	53.8
理工学部	50.7	52.6	73.8	66.3	57.6
生産工学部	50.7	49.8	48.0	61.1	56.2
工学部	48.7	53.0	73.5	64.4	51.6
医学部	29.1	29.1	60.1	57.0	38.0
歯学部	30.2	46.0	45.5	59.4	41.5
松戸歯学部	38.9	34.3	47.5	64.6	41.5
生物資源科学部	58.8	51.5	61.3	62.8	64.5
薬学部	43.9	49.0	57.0	78.5	64.9

### 3. 休講・空き時間の過ごし方

#### (1) 空き時間に過ごす友達の人数の経年変化

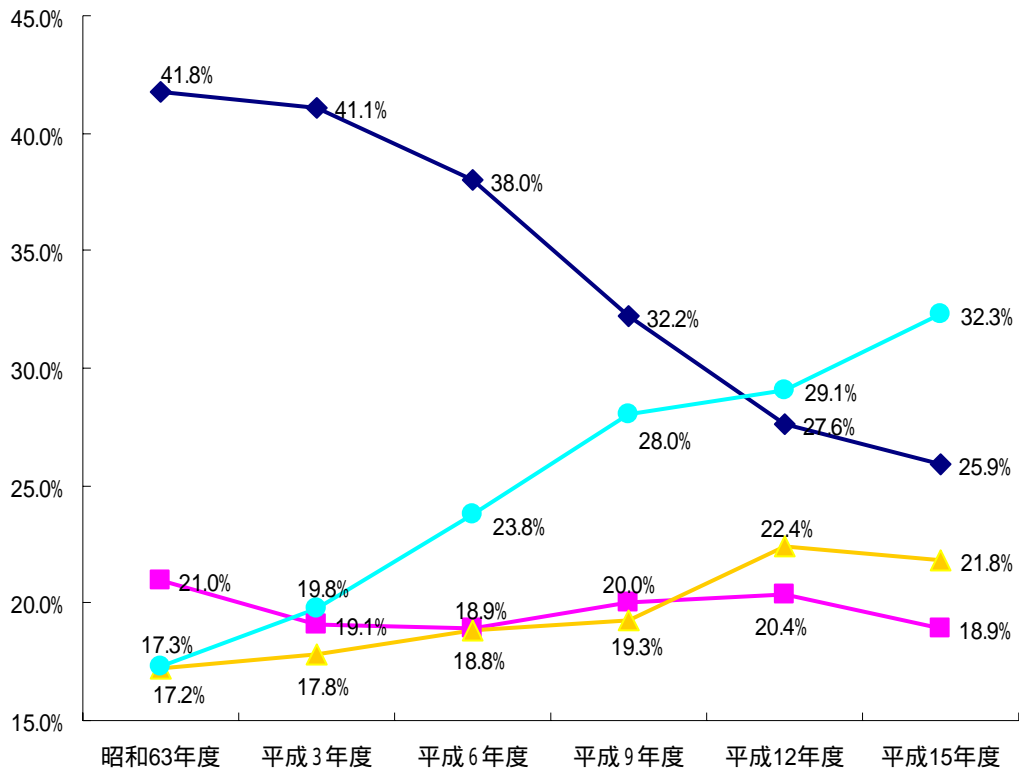
1人で過ごす学生が増加、孤独化の進行か？

空き時間に過ごす友達の人数の経年変化をみると、「主に1人で過ごす」という人が昭和63年度の17.3%から平成15年度は32.3%と約15ポイントも増加している。

「主に4人以上で過ごす」という人は、41.8%から25.9%へと約16ポイント減少しており、「友達と3人で過ごす」という学生も減少傾向にある。

空き時間の過ごし方が1人あるいは少人数で過ごす傾向が強くなってきている。

図2-3 空き時間に過ごす友達の人数の経年変化



(2) 空き時間を過ごす場所

空き時間を過ごす場所は、「学生食堂・喫茶店へ行く」が減少、「図書館へ行く」が最も多い。

空き時間を過ごす場所は、「図書館へ行く」(44.8%)、「学生食堂・喫茶店へ行く」(37.4%)が上位2項目で、次いで「校内でぶらぶらしている」(18.8%)、「自宅(アパート等)に帰る」(18.6%)となっている。

上位2項目について、経年変化をみると、「学生食堂・喫茶店へ行く」は減少傾向にあり、「図書館へ行く」という人は、調査開始以降増加していたが、今回の調査ではじめての減少を示した。

表2 - 5 空き時間を過ごす場所の経年変化

(単位：%)

項目	年度	昭和 63年度	平成 3年度	平成 6年度	平成 9年度	平成 12年度	平成 15年度
図書館へ行く		35.6	40.0	46.0	46.1	47.2	44.8
研究室へ行く		6.7	7.2	7.9	7.3	8.3	8.5
学生食堂・喫茶店へ行く		52.1	52.5	49.8	45.3	44.9	37.4
空いた教室へ行く		7.0	8.1	10.7	10.8	11.7	10.8
学生ホールへ行く		15.9	15.0	13.5	12.4	10.3	10.1
部室(サークル室)へ行く		13.0	13.6	14.4	14.5	13.3	12.7
校内でスポーツをしている		5.2	4.9	5.2	5.2	5.5	6.5
校内でぶらぶらしている		15.3	14.8	19.1	17.5	19.7	18.8
マージャン・パチンコ・ゲームセンター		13.8	13.8	11.2	11.5	8.1	6.8
学校周辺の喫茶店へ行く		18.0	9.1	6.1	6.9	7.5	7.0
学校周辺の店へ行く		15.5	17.9	16.6	17.7	15.3	16.4
友人宅へ行く		12.0	10.0	9.9	9.7	9.3	7.1
自宅(アパート等)に帰る		21.7	20.2	20.5	19.9	19.2	18.6
その他		4.9	5.2	5.9	5.9	8.2	6.5